

Crew Voice

2017年3月1日 創刊号

JR東海労・新幹線車内業務見直し反対プロジェクト

新幹線車内業務見直し反対のプロジェクト発足

JR東海労新幹線地本は、2月27日地本・東一運・東二運・乗務員分科会で昨年12月21日会社から提案された「新幹線車内業務の見直し」に対して撤回を求めて闘うためのプロジェクトを発足しました。

この提案の問題点は

1. 車掌の大幅人員削減をもたらすこと。
2. 列車長・車掌長の大幅な業務量増大による労働強化をもたらすこと。
3. 運転士と車掌のクルー化によって運転士の本線乗務時間・乗務距離の拡大をもたらすこと。
4. 運転士の短区間と短巡回の混み運用が入ること。
5. 大幅人員削減によって余剰人員が発生し強制出向・転勤となること。
6. 偽装請負の拡大となること。
7. 緊急時や異常時で車掌二人では対応不能となり安全性が低下すること。

このような多くの問題点がある「新幹線車内業務の見直し」提案について撤回を求めて声を上げていきます。

責任組合と自称する養殖組合は、なんで業務委員会なの！？

私たちは、今回の提案を「大幅人員削減を伴う労働条件の変更である」として説明や業務委員会で協議する内容ではないとして団体交渉を申し入れました。

しかし、責任組合と自称する養殖組合は、12月21日提案を受けたその日に77項目もの質問がされています。おかしくないですか。事前に提案内容をわかっているわけでは無いのでしょうか。これって不当労働行為そのもの？

さらに、提案を受けた翌日に申し入れを行っています。これっておかしくない。組合員の声はどこに反映されたのでしょうか。

業務委員会は、「会社は説明の場とっています」、当然にも何の権限もなく組合の要望は聞く程度です。このような大幅人員削減を伴う労働条件の変更に対して、撤回や組合の要求を通すことは可能なのでしょうか。

まさに、会社と養殖組合一体となり団体交渉ではなく業務委員会での話し合いの場へと誘導しているのはおかしくないですか？

JR東海労・新幹線車内業務の見直し反対プロジェクトは、情報『Crew Voice』で、乗務員の声を主張していきます。

今回の会社からの「新幹線車内業務の見直し」は、車掌の大幅人員削減のみならず、列車長や車掌長の労働強化及び運転士の労働強化をもたらす乗務員職場の大改革です。このまま声を上げなければ、乗務員の労働条件や待遇など乗務員の特殊性がだんだん奪われていきます。共に考えていきましょう。多くの意見と感想をお願いします。